



視覚情報の本格共有を進めて、救命救急医療の現場をサポート。

導入の目的: 地域医療機関の連携、救急医療体制の拡充、医師の働き方改革など

聖マリアンナ医科大学病院 救命救急センター
1980年に神奈川県初の救命救急センターとして開設。救命センターの重症病床は66床、専従医36人など、一次から三次救急まで幅広く対応できる体制を敷いている。
https://www.marianna-u.ac.jp/hospital/departments/critical_care

課題

音声による情報伝達機能の限界と、医師のマルチタスク化への対応。

救急車からの音声による情報では、患者の現状と齟齬が生じることがあった。また、高度化する現代医療では、医師のマルチタスク化への対応が課題に。

対策

ローカル5G等のネットワークを構築し、救急車や医療機関と視覚情報を共有。

映像と音声で救命救急士が患者の正確な情報を伝達可能に。また、映像情報で患者の様子がわかるため、緊急外来で医師が待機する必要がなくなった。

効果

搬送／転送先の選定時間を32.8%削減。
医師の拘束時間は70%削減に成功。

より正確な患者の情報を得て、効率的な受け入れ準備が可能に。また、緊急外来での医師の待機時間が減少し、その時間を他の業務に充当できた。



お問い合わせ

NTTドコモビジネスソリューションズ株式会社

〒108-8118 東京都港区芝浦3丁目4番1号 グランパークタワー
www.docomobs.com

- 記載内容は2023年8月現在のものです。
- 表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。
- 記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

NTTドコモビジネスソリューションズ株式会社は全国のお客さまへ営業活動を行うNTTドコモビジネス株式会社のグループ会社です。
※2025年7月、社名変更により、ドコモビジネスソリューションズはNTTドコモビジネスソリューションズに、NTTコミュニケーションズはNTTドコモビジネスになりました。

導入事例の詳細は、
こちらでご覧になれます。

